

## 武藤氏 金銭トラブル報道

# 「政治不信生み残念」

京滋議員

未公開株をめぐる金銭ト

ラブルの報道から1週間たつた26日に釈明会見を行った武藤貴也衆院議員（滋賀4区）に対して、京滋の議員は与野党を問わず、さらなる説明を求める一方、自民党では相次ぐ若手議員のトラブルに候補者選定や育成に対する危機感も強まっている。

自民党滋賀県連会長の上野賢一郎衆院議員（滋賀2区）は「今日の会見を受けさまざまな声が寄せられると思うので丁寧に対応していくべきだ。離党したとはいえ、県連に所属していた議員が政治不信を生じさせたのは残念」と話した。

党若手議員の相次ぐ舌禍

やトラブルに、谷垣禎一幹事長（京都5区）も「1回（の選挙）ごとに振り子のように大量の落選者や当選者を出す小選挙区制は若い人が育たず、工夫が必要だ」との認識を示しており、上野氏は「来夏の参院選候補者などしっかりと選びたい」と気を引き締めた。

公明党も安保法制審議などで影響を受けてきただけに、竹内譲衆院議員（比例近畿）は「国会議員として見識や品性ある行動を取ってほしい」と注文。「今日の会見では何が真実かわからないので、国民が納得するように今後も説明を果たすべき」と指摘した。

民主党滋賀県連代表の林

久美子参院議員は「言い訳に終始した印象で、国民や県民への説明責任を尽くしたとは言えない。引き続き十分な説明を求めたい。自民党もこれまで3回公認しているのだから、調査すべきだ」と強調した。

共産党国対委員長の穀田恵二衆院議員（比例近畿）は「一部のメディアを記者会見から閉め出したことにもごまかしの姿勢が見える。自民党も『離党させておしまい』というのは言語道断で、政党としても説明を果たすべきだ」と批判した。（東京支社編集部）